

信用保証協会は、中小企業のみなさまが事業資金の融資を受けられる時に、公的な立場でバックアップいたします。

保証時報



がんばるひょうごの中小企業を応援する月刊誌



「夏の午後」 栗村 浩史

CONTENTS

保証状況	1	あなたのまちの信用保証協会 国際フロンティア産業メッセ2009に出展します	7	やさしい法律知識	12
信用保証協会ニュース 金融機関に感謝状を贈呈しました 新規保証推進キャンペーンのお知らせ	3	西宮東地方卸売市場に潜入！	8	信用保証を利用できる方 提出書類の確認	13
各種保証制度のご案内 緊急保証制度のご案内	6	これからの企業のカタチ 「シンシア」の働きに感動し社会貢献 ～社員みんなで介助犬の普及をサポート～	9		14



これからの
企業のカタチ

株式会社ウイル

「シンシア」の働きに感動し

株式会社ウィル



住宅の分譲・リフォーム、不動産の仲介を手掛けている株式会社ウィルは企業の社会貢献の道として介助犬の普及を支援している。

岡本俊人社長が、宝塚を舞台にしたテレビドラマ「シンシア～介助犬誕生ものがたり」に感動したことがきっかけで、社員全員が勉強を始め、募金活動やチャリティーバザーなどで資金を集め、日本介助犬協会やシンシア基金に寄託している。

会社発展のお返しに

「シンシア」は日本介助犬協会が育成した第1号介助犬。宝塚市の木村佳友さん（P9写真左側）の不自由な生活をサポートしていた。木村さんは27歳のとき交通事故で首の骨を骨折（頸髄損傷）し、下半身だけでなく、腕にも障害があり、手の指も動かなくなった。

ペットとして飼い始めたシンシア（ラブラドルレトリバー種）を、木村さんの不自由な生活をサポートする介助犬として訓練することになった。その3年余りの努力と苦闘が毎日放送のテレビドラマ「シンシア～介助犬誕生ものがたり」になり、2003年5月に放映された。

これを見たウィルの岡本俊人社長は、ドラマの舞台である宝塚の見慣れた風景を見ながら、次第に木村さんとシンシアの交流や周囲の人たちの支援の姿に引き込まれていった。

翌日、岡本社長は社員にビデオテープを渡して、「これを見て、私たちにできることはないかを考えてくれ」と言った。岡本社長は「会社がここまで発展したのは地域の人たちのおかげ。社会貢献でお返ししたい」と考えていたのだ。

できることから始めたい

ビデオを見た社員たちは、シンシアとともに悪戦苦闘しながら社会に復帰しようとする木村さんの努力に感動した。ウィルの企業理念は「心を打つ仕事をしたい。真のプライドが持てる会社にしたい。不動産業界のイメージを変える意志を持ち続けよう」にある。介助犬を社会に認めてもらおうと働き掛けている木

村さんの姿は、ウィルの企業姿勢と一致していた。

木村さんを訪ね、「大きな力にはなれないができることから始めたい」と話すと、木村さんは「介助犬のことを知ってもらうだけでもありがたい」と喜んだ。

木村さんはシンシアと共に、講演会や取材対応に加え、国会や自治体への働き掛けなどを行い、宝塚市で始まったボランティアの優しさの輪が、兵庫県、国会へと広がり、2002年5月に「身体障害者補助犬法」が成立した。法律では、公共施設や交通機関をはじめ、レストランやホテル、スーパー、銀行などの施設に、補助犬同伴の受け入れを義務付けたが、社会の理解は進んでおらず、その後も木村さん自身もたびたび介助犬の同伴を拒否されてきた。

ウィルは、本社のエレベーターホールにシンシアを紹介する写真を展示し、日本介助犬協会への募金箱を置き、シンシアのTシャツの販売も始めた。会社が取引先を招待して開いたパーティーでは、木村さんとシンシアをゲストに招き、取引先の人たちに、木村さんを助けるシンシアを見てもらった。



ウィルの各店には介助犬支援の募金箱やシンシアのイラストが入ったTシャツが置かれている

社会貢献

～社員みんなで介助犬の普及をサポート～



社内行事のフリーマーケットでも売上金の一部を介助犬支援に役立てている

すでにあるものにプラス

営業所の受付には介助犬のパンフレットと募金箱を置き、お客さまにも介助犬について知ってもらうように努めている。会社の広告物にシンシアのイラストを掲載し、ホームページから日本介助犬協会や毎日新聞大阪社会事業団の「シンシア基金」などのホームページにいけるようにリンクさせた。

毎年の社内行事で開くフリーマーケットの売上金の一部を日本介助犬協会やシンシア基金に寄託し、総額は200万円を超えた。

こうした活動を通じて、社員たちは「お客さまと話をする中で、介助犬について知ってもらえることができうれしい」などの感想を持つようになった。

営業推進グループの岡田洋子さん（P9写真右側）は「木村さんとシンシアに出会い、自分の無力さを実感しました。日ごろの自分をいさめ、謙虚な心を思い出すことになり、相手の立場に立って物事を考えるようになった。これは企業活動にも役立っていると思います」と話している。

さらに岡田さんは「ボランティアや支援と言うと、たいそうだと思っている人が多いかも知れませんが、当社の活動は、すでにある広告物や社内行事にちょっとしたことをプラスただけで、あらためて何かを始めたわけではありません。気持ちさえあればできることだと思っています」と語る。

介助犬訓練施設「シンシアの丘」完成

シンシアは2005年に引退し、翌年12歳で亡くなった。木村さんの介助は2代目の「エルモ（ラブラドル・トリバー種）」が引き継いだ。エルモはコンピュータプログラムマーの木村さんの手足の代わりになって、床に落としたUSBメモリを口にくわえて拾い上げたり、電話

が鳴るとコードレス電話の子機をくわえて運んできてくれたりする。

身体障害者補助犬法は、盲導犬、聴導犬、肢体不自由者のために日常動作の補助を行う介助犬を総称して補助犬と定義している。全国の補助犬の頭数は1,112頭（盲導犬が09年3月、聴導犬と介助犬が09年6月現在）であり、そのうち介助犬は47頭。兵庫県ではエルモを含め4頭が活躍している。

全国の障害者手帳1級、2級の肢体不自由者約55万人のうち1万5,000人ほどが介助犬を必要としているとみられていることから、充足率はわずか0.3%。

介助犬にはどんな場所でも、どんな状況でもおどおどせず、平常心でいられるという適性が必要であるが、適性のある犬を見つけ出すことが難しい。訓練士も少ない上に、訓練費用が1頭あたり300万円から500万円ほどになることも普及を妨げている。

だが、ことし5月、愛知県長久手町に介助犬の専門施設として日本初となる介助犬総合訓練センターが開設され、最大25頭の訓練ができるようになった。センターの愛称は、身体障害者補助犬法制定のきっかけになったシンシアにちなんで「シンシアの丘」と名付けられた。

木村さんは「介助犬を普及させていくのは大変ですが、ウィルさんのような企業が現れて大変ありがたい」と感謝するが、岡田さんは「私たちこそ元気をもらっているのです」と話している。これからのウィルの活躍に期待したい。



1993年に6人で始めた不動産の仲介、リフォーム、リノベーションや住宅の開発分譲事業を手掛けている会社。現在は宝塚、伊丹、川西、豊中、箕面などに5営業所を開設、社員は126人。「人生にかかわる総合サービス企業」を目指している。

社名 株式会社ウィル
 本社 兵庫県宝塚市逆瀬川1-14-6
 TEL 0797-74-7272 URL <http://www.wills.co.jp>